

牧野 善浴 委員

「困ったら助けてと言おう」と「同居の家族が気をつけよう」

私からは、公と個人の立場の両方からのメッセージです。

静岡市障害者協会は、静岡市から相談支援推進センター（基幹相談支援センター）を受託運営しており、重症心身障がいを中心に支援する「アグネス静岡」ほか計10か所の相談支援事業所と連携して、どんな相談も断らず、課題の解決にあっています。

コロナ関係では、知的障がいや精神障がいのある人や子どもの保護者から不安の相談が増えています。あまり理解ができない本人は感染を拾いやすく、さらに拡散しやすいのでかえって大変でしょうし、虐待も心配です。医療的ケアのある場合でも困ったことがあったら、計画相談がある人はその相談員へ、そうでなければ委託の相談支援センターにお電話してください。困ったときは、相談して「助けて」と言いましょ

う。

個人的な立場では、重症心身障がいのある長女の父親として、従たる介護者です。主たる介護者である母親からは、外からウイルスを持ち込む最大の危険人物とみなされ、出勤や外出時にアルコール消毒液やマスクの持参と活用を、帰宅時の手洗いを徹底するよう指導されています。また、コロナの疑いや濃厚接触者になる可能性が一番高く、そうなったら家庭内隔離は難しく、外部隔離を求められそうです。家族の誰かが感染したら、発症前の感染力を考えると「一家全滅」となり、本人の生命の危険はもちろん、医療崩壊にも繋がりがねません。

そのためにもコロナに絶対掛からないように、同居の家族こそ気をつけたいと思います。特にお父さん、お願いします。

特定非営利活動法人静岡市障害者協会 牧野善浴（社会福祉士）